

チャレンジ通信

埼玉県議会自由民主党議員団 幹事長

なかやしき慎一



文月に思う

7月に入り10日ほど過ぎた今日、梅雨もあけていない状況で、記録的な高気温と高湿度の毎日、梅雨明け前に「夏バテ」になってしまいうる日々が続いています。皆様におかれましては、先ずは十分な睡眠をお取りいただくことや水分補給にご留意いただきお過ごしいただけたらと思います。

さて、3日には本県三偉人の一人「渋沢栄一翁」の肖像が採用された一万円札の新紙幣が発行されました。5日の6月議会閉会日には、議事終了の挨拶時に大野知事、齊藤議長が、渋沢栄一翁のトレードマークであるシルクハットを着用し、県当局・議会が一体となり盛り上げていくという姿勢を表しました。本会議場では「帽子」を着用してはいけないという規則がありますが、朝の議会運営委員会で「特例」として実施決定という裏話もありました。今回の出来事を祝するだけでなく、本県経済の更なる発展へと結ぶるように、議会も当局とともに取り組んでまいります。

6月定例会報告

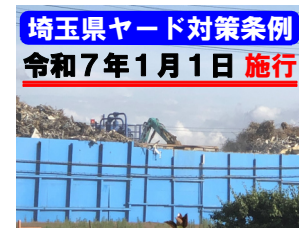
県議会6月定例会(6月17~7月5日)は、自民党県議団提案の「再生資源物を適正保管するヤード対策条例」や、国土交通省で、道路局環境安全・防災課長を務めた、伊藤高(たかし)副知事を新たに起用する人事案、2月定例会から継続審議となっていた「第4期埼玉県教育振興基本計画」の策定など、意見書13件を含む計21議案を可決・同意・承認して閉会しました。

昨年度まで毎議会といつてよいほど補正予算を組んで対応してきた新型コロナウイルス感染症が、昨年5月に感染症法上の5類へ移行したこともあり、久しぶりに補正予算審議の無い落ち着いた6月定例会となりました。



自民党県議団 提案による「ヤード条例」を可決

県内各地で急増している再生資源の保管場所(スクラップヤード)における、再生資源物の保管や処理について必要な規制を行うことで、県民生活の安全確保を図ることを目的に昨年度から検討を重ねてきたヤード条例が、議会最終日に可決されました。条例では、事業場面積100㎡以上の事業者は、あらかじめ知事の許可を受けることを義務付け、無許可での営業や知事の命令処分に反した者への罰則規定(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)も設けられました。国による法整備が実現されない中で、同様の条例が、千葉県では本年4月に、さいたま市でも2月に施行されています。千葉県からの事業者流入に歯止めをかけるためにも必要な条例と考えます。



東松山鴻巣線(御成橋) 4車線整備事業について

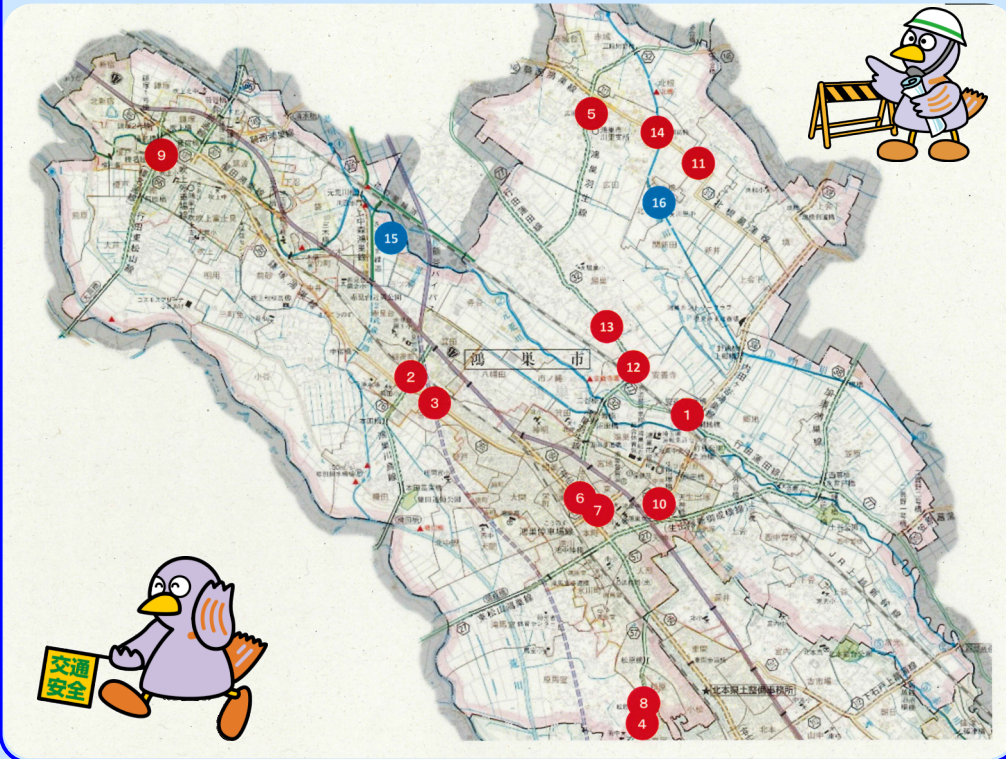


本路線は、東松山市内の国道254号、国道407号と鴻巣市内の国道17号を東西につなぐ幹線道路で、国が整備を進めている国道17号上尾道路とも接続する重要な路線となることから4車線化を推進している。



なかやしきの思い! — 注目ポイントは! —
東松山鴻巣線
 東松山と本市を結ぶ県道東松山鴻巣線。吉見や東松山においては、工事もかなり進んで令和7年以降に両区域は全て供用が開始される見込みとなっている。課題は、写真⑦⑧⑨に示している、川幅日本一の荒川の横堤区間から本市で上尾道路と接続する予定地までが未だ事業化に至っていない事。特に横堤区間については、都市計画も未だ決定されていない。国の管理する区間であることや吉見総合運動公園の一部であることも難しさを助長するが、県は取り組みに注力し、至急都市計画の変更へと進めてもらいたい。

令和6年度当初予算 鴻巣市内の主な県の事業



- ① 行田蓮田線(郷地) 自転車歩行者道整備
歩道が途切れているため歩行者にとって危険な状況となっています。このため歩行者の安全確保に向けて歩道整備を行います。
- ② 鴻巣川島線(鴻巣立体) 道路改築
- ③ 鎌塚鴻巣線(宮前) 自転車歩行者道整備
- ④ さいたま鴻巣線(原馬室) 自転車歩行者道整備
- ⑤ 鴻巣羽生線(広田) 交通安全施設設備事業
通学路である歩道が狭小のため、児童等の安全確保に向けて歩道整備を行います。
- ⑥ 仲仙道線(雷電) 街路改良事業
- ⑦ 仲仙道線(雷電) 街路整備
- ⑧ さいたま鴻巣線(原馬室) 交通安全事業
- ⑨ 行田東松山線(榛名陸橋) 橋りょう修繕
【工事概要】
落橋防止装置設置、橋脚コンクリート巻立て



令和5年度2月補正予算 抜粋(国の補正対応分)

仲仙道線(雷電工区)街路改良事業 ※令和6年度当初予算 ⑥⑦

17号国道までの市道整備の令和5年度完成に伴い、中山道北側に右折避讓帯を整備。令和6年度は対象区間の無電柱化に向けて事業を進める。

凡例	
未買収箇所	緑
R6用地買収箇所	黄
用地買収済み・工事未着手箇所	青
R6工事実施箇所	赤
完成箇所	黒

一級河川元荒川(仮称)川面調整池 治水対策事業

環境調査業務委託(本川含む)
基本設計業務委託
用地測量業務委託

調整池計画範囲
面積: 約37ha
容量: 約40万m³

なかやしきの思い! — 注目ポイントは! —

(仮称)元荒川川面調節池

令和元年東日本台風襲来時に、市内の元荒川沿川地域で溢水による浸水被害が多数発生した。その後、河道の浚渫や護岸の嵩上げ工事などにより対策を講じてきた。護岸の工事は今後も継続するが、しかし、昨今のゲリラ豪雨などを踏まえると、対策はまだ不十分。元荒川本川に沿川流域から一気に大量の水が流れ込まないようにする手立てが必要。面積約37ha、容量約40万m³という(仮称)川面調節池治水対策事業が始まった。令和6年度に入り改めて地元への説明会を開いた。地域の理解を得る努力を継続しつつ設計業務等の新たな段階へと歩を進めていく。



- ⑩ 内田ヶ谷鴻巣線(生出塚) 舗装修繕
- ⑪ 北根菖蒲線(関新田) 舗装修繕
- ⑫ 鴻巣羽生線(屈巢) 舗装修繕
- ⑬ 鴻巣羽生線(屈巢) 道路環境整備(側溝修繕)
【工事概要】側溝蓋受部調整、蓋取替



- ⑭ 北根菖蒲線(新井) 道路環境整備(防草対策)
防草工事イメージ(着工前・完成)

- ⑮ 元荒川 河川改修
- ⑯ 野通川 河川改修(水辺)

